

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立松梅小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上においては、学校として共通実践意識(教職員の)は高くなってきているので、これをPDCAサイクルで粘り強く継続して回しながら、学力の定着につなげていく。 ・全校児童に占める配慮を要する児童の割合が大きくなってきていることを踏まえ、全教職員の特別支援教育に関する理解を更に深めていくと共に、学校全体での具体的な指導支援の在り方を構築していく。 ・全校児童に占める不登校児童および不登校傾向児童の割合が大きいくことを踏まえ、それらの児童についての関係機関を交えての学校全体での理解を更に深め、担任以外の教職員の当該児童への支援の在り方、担任へのサポート(負担を軽減していくことにつながる取組)在り方など、学校全体での協力体制を構築していく。
------------------	--

2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会に開かれた教育課程の実現 ② 学校運営協議会制度を生かした小中一貫教育の推進 ③ 安心・安全な学校づくり(集団に不適応を起こしている児童生徒への対応)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した共通実践事項(具体的な手立て)を継続して実践した教師の割合が80%以上。 ○各学年における国語・算数の単元末テストの学級平均点が、5・6年で85点以上、1～4年で90点以上。	○学力向上対策評価シートに示した共通実践事項を共通理解し、朝のスキルタイム(木曜は全校一斉)や授業の中で指導実践する。 ○スピーチタイムで、全校児童が意見発表する場を設定し、感想交流も充実させる。 ○お題を決め、毎月松梅川柳を書く。素敵な表現ができた児童を称賛し、作品は児童の手本とする。							学力向上(熊谷先生)
	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	○「めあてをもって学習に取り組むことができたか」「めあてに対して振り返りを行うことができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。 ○「自分の考えを表現することができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・児童が学びを振り返り、次の学習に向けて取り組めるように、教職員間で共通理解し設定した振り返りの指導(振り返りの視点を提示する)を行う。 ・自分の考えをもち、ペア活動で表現する言語活動を毎時間取り入れるよう心掛ける。							学力向上(西山先生)
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の学習で、様々な価値観をもつことができるように児童相互の意見交流を仕組んでいる。」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。 ○「友達の良いところを見つけたり、ほかほか言葉を使ったりすることができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・道徳の学習において、「価値項目に対する自分の考えをもたせる」、「自他の考えを交流させる」活動を設定するなど、職員が共通理解のもとに取り組む。 ・朝の会や帰りの会、学活、命や公正・公平の大切さに気付かせる目的の平和集会、人権集会等を通して温かい雰囲気づくりの学級づくりを行う。 ・毎月児童に「心のアンケート」を行い、気になる児童の把握をして、早期に対応をする。 ・職員連絡会後に、気になる児童の情報交換を行い、支援の進捗状況についての共通理解を図る。 ・いじめ防止研修や共通理解の場を年3回設ける。							人権・同和(野田先生) 教育相談(神武先生)
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止に向けて気になる子等に組織的に関わることができた。」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。	・毎月児童に「心のアンケート」を行い、気になる児童の把握をして、早期に対応をする。 ・職員連絡会後に、気になる児童の情報交換を行い、支援の進捗状況についての共通理解を図る。 ・いじめ防止研修や共通理解の場を年3回設ける。							教育相談(神武先生)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答する児童80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている。」について肯定的な回答をする児童80%以上。	・「ゆめノート(キャリアパスポート)」を活用し、夢や希望について考えさせ、目標を意識させながら学習や活動に取り組ませる。 ・経験や達成感により、自己肯定感や自己有用感を高めさせるために、体験活動を計画的に仕組む。							キャリア教育(教務) 特別活動(松本先生)
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。	・食の大切さについての意識を高める目的で、給食センターの栄養教諭と連携し給食指導や食に関する授業を行う。							保健・体育・食育(松本先生)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守している職員の割合が100%。	・退勤時刻を意識して業務が進められるよう、18:30までに施設完了、定時退勤日(金曜日)は17:10施設完了を呼びかける。 ・職員から業務改善・働き方改革のためのアイデアを募り、共有することで教職員の意識改革を図るようとする。							管理職(副校長)
●特別支援教育の充実	○学習や生活におけるつまづきを把握し、個々に応じたかかわりを行う。	○「児童の実態の把握に努めた」「実態に応じた支援を行った。」と回答する職員の割合が85%以上。	・特別支援コーディネーターと各担任が連携をし、個々のつまづきに応じたかかわりの検討、実施を行う。 ・職員連絡会や小中合同の支援協議会等を活用し、児童の実態の把握・共有を図る。 ・職員全体での研修を設定して、実態に応じた支援の在り方についての理解を深め、実践につなげる。							特別支援教育(白井先生)
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
○不登校および不登校傾向児童	○不登校および不登校傾向児童への組織的に対応	○「不登校および不登校傾向児童に対して組織的対応ができていく。」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。	・気になる児童について、毎週の職員連絡会や毎月の生徒指導・校内支援協議会等で随時共通理解をし、必要に応じてケース会議等を開くことで、学校全体で組織的に対応をする。							教育相談(神武先生)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--